



平成23年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月11日

上場会社名 株式会社 梅の花 上場取引所 東
 コード番号 7604 URL <http://www.umenohana.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梅野 重俊
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼経営計画室長 (氏名) 上村 正幸 (TEL) 0942-38-3440
 四半期報告書提出予定日 平成23年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有・無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年9月期第3四半期の連結業績 (平成22年10月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年9月期第3四半期	22,517	2.9	664	7.1	496	△3.1	△96	—
22年9月期第3四半期	21,884	0.9	620	100.0	512	956.1	346	135.0

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年9月期第3四半期	△1,524.04	—
22年9月期第3四半期	6,006.27	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年9月期第3四半期	20,069	6,069	30.2	85,302.69
22年9月期	18,329	3,454	18.8	59,864.31

(参考)自己資本 23年9月期第3四半期 6,069百万円 22年9月期 3,454百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年9月期	—	0.00	—	500.00	500.00
23年9月期	—	0.00	—	—	—
23年9月期(予想)	—	—	—	500.00	500.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 : 有・無

3. 平成23年9月期の連結業績予想 (平成22年10月1日～平成23年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	28,664	△0.2	680	17.7	446	22.0	△258	—	△4,474.90	

(注)当四半期における業績予想の修正有無 : 有・無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 有・無
新規 一社 ()、除外 一社 ()
(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有・無
(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有・無

- ② ①以外の変更 : 有・無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

23年9月期3Q	71,147株	22年9月期	57,700株
23年9月期3Q	—株	22年9月期	—株
23年9月期3Q	63,258株	22年9月期3Q	57,700株

- ② 期末自己株式数

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、平成23年8月9日付にて、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかな回復基調にありましたが、東日本大震災の影響により企業の生産活動が停滞し、個人消費も弱含みといわれるなかで推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは「店舗は舞台 お客様は観客 我々は一流役者 一流の料理と一流の接客でお客様に感動を与え続けます」を経営方針として、お客様に「感極まるサービス」を提供できるように取り組んでまいりました。

販売強化策として、年末は「おせち料理」、年始は「福袋」、2月は「恵方寿司」、3月は雛祭りをイメージした「ちらし寿司」と毎月のように新しい企画を打ち出し、着実に販売量を強化しております。

また、震災の発生により、店舗の一時休止や計画停電による首都圏店舗の営業時間短縮に加え、消費マインドの冷え込みにより来客数が減少し、売上高及び営業利益に影響を及ぼしました。

店舗の出店及び閉店につきましては、外食事業3店舗出店、1店舗F. C. 店から直営店に変更及び3店舗閉店、テイクアウト事業7店舗出店及び2店舗閉店、8店舗の分離独立（株式会社古市庵より株式会社梅の花plusへ移管）により、当第3四半期末の店舗数は、252店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高225億17百万円（前年同期比102.9%）、営業利益6億64百万円（前年同期比107.1%）、経常利益4億96百万円（前年同期比96.9%）、四半期純損失96百万円（前年同期は四半期純利益3億46百万円）となりました。

なお、セグメントの状況は次のとおりであります。

(外食事業)

広告販促手段をテレビコマーシャルに重点を置き、「気がねなく話せる個室」がある店舗イメージを発信し、夜にごゆっくりお食事頂けるお店をアピールいたしました。

単品メニューにおきましても、レシピの改善や新しいドリンクメニューを積極的に提案・投入し、お声がけを強化することで、客単価を上げることにより売上げの底上げができるように努力いたしました。また、店舗にお越し頂いたお客様に、感極まるサービスを提供するためにはどうしたら良いかということに対して、全ての従業員からアイデアを募集し、各店舗に合わせた最良の取り組みを行うことで顧客満足度とリピート率のアップを図っております。なお、取り組みの結果に関しましては、他の店舗に直ちにフィードバック出来る体制を作っており、さらに顧客満足度を上げることができるよう努力しております。

さらに、ここ数年来、継続的に強化している近隣の企業様への訪問営業にも力を入れております。

出店及び閉店につきましては、梅の花は、10月に「奈良店（奈良県）」、3月に「天神店（福岡県）」を出店、5月に「川西店（兵庫県）」をF. C. 店から直営店に変更、2月に「アクロス天神店（福岡県）」、3月に「立川店（東京都）」、「仙台店（宮城県）」を閉店し、68店舗、チャイナ梅の花4店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は、10月に新業態として「餃子屋一番（福岡県）」を出店し、3店舗となりました。従いまして、外食事業の全店舗数は78店舗、売上高は143億21百万円、セグメント利益10億61百万円となりました。

(テイクアウト事業)

出店及び閉店につきましては、古市庵テイクアウト店は、3月に「博多阪急店（福岡県）」、「大井阪急店（東京都）」、「二子玉川 東急フードショー店（東京都）」、4月に「あべのIY店（大阪府）」を出店、10月に「熊本鶴屋店（熊本県）」を閉店し、138店舗となりました。

梅の花テイクアウト店は、従来、古市庵テイクアウト店に含めて管理していた8店舗、「新宿高島屋店（東京都）」、「金沢名鉄丸越店（石川県）」、「静岡松坂屋店（静岡県）」、「広島駅前福屋店（広島県）」、「恵比寿三越店（東京都）」、「志木丸井店（埼玉県）」、「都筑阪急店（神奈川県）」、「ラゾーナ川崎店（神奈川県）」を古市庵テイクアウト店より10月に分離独立させ、3月に「博多阪急店（福岡県）」、「大井阪急店（東京都）」を出店、5月に「新宿高島屋店（東京都）」を閉店し、29店舗となりました。

その他店舗は、2月に「梅田阪神立喰寿司店（大阪府）」を出店し、7店舗となりました。

従いまして、テイクアウト事業の全店舗数は174店舗、売上高は81億95百万円、セグメント利益2億62百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①連結財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ17億40百万円増加し、200億69百万円となりました。これは主に、公募増資及び第三者割当増資等により現金及び預金が18億72百万円、新規出店等により有形固定資産が1億58百万円増加し、のれん償却によりのれんが86百万円減少したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計期間末と比べ8億74百万円減少し、140億円となりました。これは主に、借入金の総額が14億84百万円減少し、資産除去債務6億38百万円を計上したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計期間末と比べ26億14百万円増加し、60億69百万円となりました。これは公募増資及び第三者割当増資により資本金及び資本剰余金が27億41百万円増加し、四半期純損失96百万円を計上したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計期間末と比較して、19億21百万円増加し、25億55百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は12億55百万円（前年同期14億15百万円の収入）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益26百万円の計上、非資金的費用である減価償却費7億49百万円及びのれん償却費86百万円の計上、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額3億69百万円を計上したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は5億31百万円（前年同期8億45百万円の支出）となりました。

これは主に、新規出店等に伴う有形固定資産の取得による支出8億98百万円、土地売却による収入2億80百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、得られた資金は11億98百万円（前年同期8億80百万円の収入）となりました。

これは主に、金融機関からの長期借入れによる収入26億円及び長期借入金の返済による支出33億58百万円、短期借入金の純減額7億26百万円、株式発行による収入27億41百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年11月12日に公表いたしました業績予想と変更はありません。

なお、業績予想につきましても、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

適用した簡便な会計処理につきましては、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

（「資産除去債務に関する会計基準」等の適用）

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ21,501千円減少し、税金等調整前四半期純利益は390,677千円減少しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,883,749	1,011,665
売掛金	1,223,614	1,211,767
商品及び製品	57,547	65,736
原材料及び貯蔵品	137,714	126,128
繰延税金資産	224,756	176,100
その他	439,861	501,413
貸倒引当金	△1,958	△1,958
流動資産合計	4,965,285	3,090,854
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,775,923	6,723,450
機械装置及び運搬具（純額）	159,663	188,127
土地	4,639,687	4,595,376
建設仮勘定	131,893	53,750
その他（純額）	544,342	532,804
有形固定資産合計	12,251,511	12,093,509
無形固定資産		
のれん	722,702	809,376
その他	71,253	75,307
無形固定資産合計	793,955	884,683
投資その他の資産		
投資有価証券	65,103	64,247
長期貸付金	75,237	72,562
繰延税金資産	105,387	253,348
敷金及び保証金	1,732,545	1,750,554
その他	161,795	196,001
貸倒引当金	△81,066	△76,281
投資その他の資産合計	2,059,004	2,260,433
固定資産合計	15,104,470	15,238,626
資産合計	20,069,756	18,329,480

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	573,848	571,411
短期借入金	2,820,000	3,546,800
1年内返済予定の長期借入金	1,894,120	2,233,240
未払金	1,114,512	1,135,427
未払法人税等	24,620	33,300
賞与引当金	124,800	224,800
店舗閉鎖損失引当金	366	16,191
ポイント引当金	92,922	72,223
訴訟損失引当金	—	10,305
資産除去債務	32,505	—
その他	638,738	587,585
流動負債合計	7,316,433	8,431,283
固定負債		
長期借入金	5,275,314	5,694,296
退職給付引当金	163,309	159,183
資産除去債務	606,210	—
デリバティブ債務	468,956	501,142
その他	170,502	89,403
固定負債合計	6,684,291	6,444,025
負債合計	14,000,725	14,875,309
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,804,852	2,434,334
資本剰余金	3,181,841	1,811,323
利益剰余金	△911,264	△786,005
株主資本合計	6,075,430	3,459,652
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,673	△755
為替換算調整勘定	△4,725	△4,725
評価・換算差額等合計	△6,399	△5,480
純資産合計	6,069,030	3,454,171
負債純資産合計	20,069,756	18,329,480

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年6月30日)
売上高	21,884,819	22,517,621
売上原価	6,289,402	6,438,575
売上総利益	15,595,416	16,079,046
販売費及び一般管理費	14,975,147	15,414,504
営業利益	620,268	664,541
営業外収益		
受取利息	4,290	3,567
受取配当金	1,564	1,685
受取保険料	1,795	—
受取手数料	15,849	15,326
保険解約返戻金	—	19,842
デリバティブ評価益	18,216	—
雑収入	27,870	23,874
営業外収益合計	69,587	64,297
営業外費用		
支払利息	137,685	119,504
デリバティブ評価損	—	53,645
雑損失	40,047	59,431
営業外費用合計	177,732	232,581
経常利益	512,124	496,257
特別利益		
固定資産売却益	68	43,743
店舗閉鎖損失引当金戻入額	2,271	—
新株予約権戻入益	768	—
特別利益合計	3,108	43,743
特別損失		
固定資産除売却損	15,538	142,203
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	600
投資有価証券評価損	108	88
訴訟関連損失	—	1,695
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	369,175
その他	5,847	—
特別損失合計	21,493	513,762
税金等調整前四半期純利益	493,739	26,237
法人税、住民税及び事業税	19,050	17,458
法人税等調整額	128,127	105,187
法人税等合計	147,177	122,646
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△96,408
四半期純利益又は四半期純損失(△)	346,561	△96,408

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	493,739	26,237
減価償却費	816,433	749,593
減損損失	1,699	—
のれん償却額	86,678	86,724
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	369,175
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△82,450	△100,000
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△24,694	△15,825
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	42,448	4,125
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3,902	4,785
訴訟損失引当金の増減額 (△は減少)	—	△10,305
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	22,482	20,698
受取利息及び受取配当金	△5,855	△5,253
支払利息	137,685	119,504
固定資産除売却損益 (△は益)	15,469	98,460
投資有価証券評価損益 (△は益)	108	88
ゴルフ会員権評価損	2,319	—
デリバティブ評価損益 (△は益)	△18,216	53,645
売上債権の増減額 (△は増加)	△39,269	△11,846
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△121	△3,396
仕入債務の増減額 (△は減少)	50,678	2,437
その他	66,570	10,378
小計	1,569,609	1,399,227
利息及び配当金の受取額	2,846	2,323
利息の支払額	△136,961	△115,448
法人税等の支払額	△20,352	△30,330
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,415,142	1,255,770
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△70,736	△312
定期預金の払戻による収入	—	50,040
有形固定資産の取得による支出	△775,731	△898,748
有形固定資産の売却による収入	2,100	280,000
無形固定資産の取得による支出	△6,655	△7,622
固定資産の除却による支出	△8,899	△5,527
投資有価証券の取得による支出	△2,342	△1,819
連結子会社株式の追加取得による支出	△120	△50
貸付けによる支出	△5,000	△2,840
貸付金の回収による収入	2,112	160
敷金及び保証金の回収による収入	40,993	80,937
敷金及び保証金の差入による支出	△17,371	△52,797
その他	△3,765	26,593
投資活動によるキャッシュ・フロー	△845,417	△531,986

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	156,600	△726,800
長期借入れによる収入	2,750,000	2,600,000
長期借入金の返済による支出	△1,979,149	△3,358,102
リース債務の返済による支出	△3,995	△23,901
割賦債務の返済による支出	△14,620	△5,280
株式の発行による収入	—	2,741,036
配当金の支払額	△28,557	△28,924
財務活動によるキャッシュ・フロー	880,277	1,198,028
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,450,001	1,921,812
現金及び現金同等物の期首残高	699,722	633,913
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,149,723	2,555,726

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日）

	外食事業 (千円)	テイクアウト 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	13,799,283	8,085,535	21,884,819	—	21,884,819
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,428,993	32,711	3,461,705	(3,461,705)	—
計	17,228,277	8,118,246	25,346,524	(3,461,705)	21,884,819
営業利益	1,269,878	57,180	1,327,058	(706,789)	620,268

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分に属する主要な事業の内容

(1) 外食事業・・・湯葉と豆腐懐石料理等の飲食店経営及びその付帯事業

(2) テイクアウト事業・・・とうふしゅうまい、湯葉揚げ、寿司等の持ち帰り専門店経営

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日）

全セグメントの売上高の合計額に占める「日本」の割合が90%超であるため、記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日）

該当事項はありません。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、サービス形態別のセグメントから構成されており、「外食事業」及び「テイクアウト事業」の2つを報告セグメントとしております。

「外食事業」は、「湯葉と豆腐の店 梅の花」を中心とした店舗を運営しております。「テイクアウト事業」は、「古市庵」の寿司テイクアウト店および「梅の花」のテイクアウト店を中心とした店舗を運営しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,321,978	8,195,643	22,517,621	—	22,517,621
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,404	31,219	37,623	△37,623	—
計	14,328,382	8,226,862	22,555,245	△37,623	22,517,621
セグメント利益	1,061,553	262,718	1,324,271	△659,730	664,541

(注) 1 セグメント利益の調整額△659,730千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年3月8日付で公募増資を実施いたしました。また、平成23年3月28日付で大和証券キャピタル・マーケット株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、第2四半期連結会計期間において資本金が1,370,518千円、資本剰余金が1,370,518千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が3,804,852千円、資本剰余金が3,181,841千円となっております。